

4. 刊行物、主催会議等

気象研究所の研究成果は、気象庁の業務に活用されるほか、研究所の刊行物、研究成果発表会などを通じて社会に還元している。

また、関連する学会や学会誌などで発表することにより、科学技術の発展に貢献している。

4. 1. 刊行物

気象研究所研究報告 (Papers in Meteorology and Geophysics)

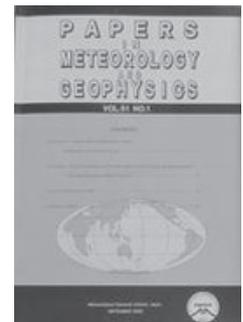
研究成果の学術的な公表を目的とした論文誌 (ISSN 0031-126X)。

気象研究所職員及びその共同研究者による原著論文、短報及び総論 (レビュー) を掲載している。主な配布先は、国の内外の研究機関・大学、気象官署などで、国立国会図書館でも閲覧することができる。

平成 17 年度からは、独立行政法人科学技術振興機構が運営する科学技術情報発信・流通総合システム” J-STAGE” に登録し、オンライン発行とした。

J-STAGE URL: <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/mripapers>

平成 28 年度は次の論文を掲載した。



第 66 卷

- ・角村悟, 西橋政秀, 楠研一: 東北地方庄内地域付近の落雷に係る電荷
- ・星野俊介, 小林広征, 小池哲司, 橋口浩之, 川村誠治, 足立アホロ, 黒須政信, 山本真之, 梶原佑介, 別所康太郎, 岩渕真海: ウィンドプロファイラとゾンデから求めた乱流エネルギー消散率の比較

気象研究所技術報告 (Technical Reports of the Meteorological Research Institute)

研究を行うなかで開発された実験方法や観測手法などの技術的内容や研究の結果として得られた資料などを著作物としてまとめることを目的とした刊行物 (ISSN 0386-4049)。主な配布先は、国立国会図書館、国内の研究機関・大学、気象官署などで、気象研究所ホームページ (<http://www.mri-jma.go.jp/>) でも閲覧することができる。

平成 28 年度は第 77~80 号を発刊した。



第 77 卷「海溝沿い巨大地震の地震像の即時的把握に関する研究」

(地震津波研究部)

第 78 卷「2013-2015 年西之島噴火のモニタリングに関する研究」

(高木朗充, 長岡優, 福井敬一, 安藤忍, 木村一洋, 土山博昭)

第 79 卷「2012 年から 2016 年に実施された温室効果ガス観測に関する相互比較実験 (iceGGO)」

(坪井一寛, 中澤高清, 松枝秀和, 町田敏暢, 青木周司, 森本真司, 後藤大輔, 下坂琢哉, 加藤健次, 青木伸行, 渡邊卓朗, 向井人史, 遠嶋康徳, 勝又啓一, 村山昌平, 石戸谷重之, 藤谷徳之助, 小出寛, 高橋正臣, 川崎照夫, 滝沢厚詩, 澤庸介)

第 80 巻「気象研究所共用海洋モデル第 4 版 (MRI.COMv4) 解説」

(辻野博之, 中野英之, 坂本圭, 浦川昇吾, 平原幹俊, 石崎廣, 山中吾郎)

4. 2. 発表会・主催会議等

・気象研究所研究成果発表会

気象研究所の研究成果を広く一般に紹介し、社会的評価を高めることを目的とした発表会で毎年 1 回開催している。平成 28 年度は、平成 29 年 2 月 28 日 (火) に一橋大学一橋講堂 (東京都千代田区) で開催し、以下の研究成果について発表した。

【報告題目】

- ・気象研究所での自然災害の軽減に向けた研究の概要
報告者：齊藤和雄 (研究総務官)
- ・豪雨予測への貢献をめざした海洋での GNSS 水蒸気観測
報告者：小司禎教 (気象衛星・観測システム研究部 室長)
- ・気象衛星ひまわり 8 号の大気追跡風を用いて捉えた台風の強化
報告者：小山 亮 (台風研究部 主任研究官)
- ・伊豆大島で進行するマグマ蓄積 ～火山性地殻変動は何を明らかにしたか～
報告者：山本哲也 (火山研究部 室長)
- ・熊本地震 ～地震発生状況の即時把握技術の開発～
報告者：溜瀧功史 (地震津波研究部 研究官)

・第 14 回環境研究シンポジウム「レジリエントな社会・国土を創る環境研究」

「環境研究シンポジウム」は、気象研究所を含む 13 の環境研究に携わる国立試験研究機関、国立大学法人及び国立研究開発法人が参加する「環境研究機関連絡会」が主催する公開シンポジウムで、毎年、決まったテーマの下で、参加する研究機関が成果の発表を行っている。平成 28 年度は平成 28 年 11 月 22 日 (火) に一橋大学一橋講堂 (東京都千代田区) において開催され、気象研究所は以下の講演及びポスター発表を行った。

【講演】

講演名：極端な気象現象の確率的気候変化予測

講演者：水田 亮 (気候研究部 主任研究官)

【ポスター発表】

- ① 竜巻を発生させた積乱雲群の再現 – アンサンブル予測を用いた竜巻の発生要因の解明 –
- ② 「平成 27 年 9 月関東・東北豪雨」の発生要因について
- ③ 衛星から見た台風の降水量
- ④ 地上日射量の長期変動に対するエアロゾルの影響
- ⑤ 台風の発達における海洋の役割：新しい TCHP の提案
- ⑥ 誘発雷回避のための将来型航空気象観測システムに関する基礎的研究
- ⑦ 大規模噴火を想定した気象レーダー観測と降灰予測
- ⑧ 大気中ラドン観測による東アジアの微量気体の発生と輸送の解明